（大正十四年二月二十二日 第三種郵便物認可）　昭和十五年十二月十日　磐城毎日新聞　〔火曜日〕　第五千九百九十二號　〔一〕

九日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月 金六十錢
□郵費 金二十五錢
□一部 賣 金二錢
□廣告料 行 金六十錢
□掲載 欄 金九十錢
□場所指定 一行 金一四錢
□電話（一番）七八六番
□編輯日常直通 二〇六五五番
福島縣磐城市田町十二番地
發行所 磐城毎日新聞社
發行兼編輯人 岡田弘成

吟情月旦〔上〕

―寄龍集佳作評―

村上梅信

英靈還るその夜の紫陽花
風もなし
英靈迎ふ堵列に菱は花を垂れ　佐藤菜人

評、この句は作者と職場を、同じうした同僚が、勇躍應召征途に上るに際し、激勵餞送して既に三ヶ月。斯くあるべき日を豫期しながらも、その武運長久を祈りつゝ止まざり！甲斐もなく遂に名譽の戰死が報せられ、この度無言の凱戰をなされたのであつた。その英靈を迎へる日の今姉のお宅に迎へて御通夜の席に連なり、弔慰の語らひにある感の感激をものしたのである遺骨を飾りて居並ぶ遺族の顏輪を偲べば　今宵更に灯しめやかに、燒香に押しかけた三百に餘る同じ職場の同僚は、歩一歩なき進退に集りかたまりて物靜かに庭のもろ木は葉むら影々を重ね、常夏の夜のいきるゝ靜寂さであつた。その庭離邊りに夜隈に壓されて咲いてゐる紫陽花の毬々は、ゆらぎもなくうな垂れてものゝ哀れを添へ、心なし花明りを漂はせてゐる風情は今宵のかなしみに四苑まおぼるゝの想ひであつた。

後句、前句と同じく英靈を迎ひ佇つ堵列の片ほとり、菱の花のうたるゝ風情は、怪ない草花にもこの場の悲しみを移して餘りあるものがあつたであらう、感激深い詠歌である。

夏雲へのび上らんと階を昇る　德久白洋

評、聳えて輝きにある峰つくる夏雲を眉字にして階を上る作者の心境である。階は階を重ねて踏み上る毎にこの輝きの夏雲に近まるの感ひは、やがてのび上らんとする心のあせりともなつて共鳴さるゝが、下田に遊びお吉の墓に詣で追慕しての詠出であるなば、涼を踏みぬ動作が自他定めなくなる　此場面としては「ちほしく」「だなり」或は「草葉に」「碑はくちて」といつた當面の情景を詠出して　當時のお吉の心境を言外後情としての詠出であらねばならない　推敲されたい。

洋妾の名に泣き踏みぬ蓮
椿　若林露棲

評、前書に下田とあるか作者は下田港に遊び、唐人お吉の墓に詣でゝ、維新を悲んだ當時の一女性の心境に想ひを致しての詠出であらう。一句として離はなが、前書下田だけではこの句の全貌が餘りに作意を加へ過ぎてある感かある、この句唐人お吉の芝居を見て前書しての詠出であるならば「泣き踏む」の動作が唐人お吉の苦心に想ひを寄

△松井軍司令官南京防衛司令官に栄轉
8月12日　皇軍蕪湖占領（昭和十二年）

○神ける堪へ得べからざる困難を與す　西洋俚諺

野茨句會「菊」

○猫ひそと菊香に眠む陽の當り　（茨城）石田　要
○菊添へて旅立つ友を送りけり（小名）小野古月
○朝庭の掃きてほのかに菊匂ふ（茨城）小林房子
○菊の香に鶏舎掃き出で海一と目　（小名）吉岡翠坡
○菊植る石の祠の千社札　（二本松）田中撫凱
○一輪の白菊薫る部屋清し　（愛知）金谷清子
○風を除け陽を浴ぶ鶏。菊畑　（小名）天川王濤
○富士晴れつゝ離の菊は薫りけり　（小名）八野光虎

連續講談　異說赤穗浪士

別題『異說赤穗義士』『赤穗誠忠錄』

〔76〕

磐城　川本若燕

馳せる安兵衛

と、その時向ふから砂燒りを立つて驅けて來る中山安兵衛。

『コレ――』

『ヘエ』

『既の邊に梁し合はなかつたか』

『梁し合、ありましたとも――』

『して老人は如何致した』

『ヘエ、お氣の毒に到頭斬られてしまひました』

『ナニッ、斬られた――』

これを見て寺田與之助がギョッとし、

『父上、安兵衛が參つたぞ――でございます』

『ナニッ、安兵衛が來たと津田氏、菅野の孫が參りましたぞ』

『ウム、參つたとあらば槍つて來てやれ　斬　て棄てやれ』

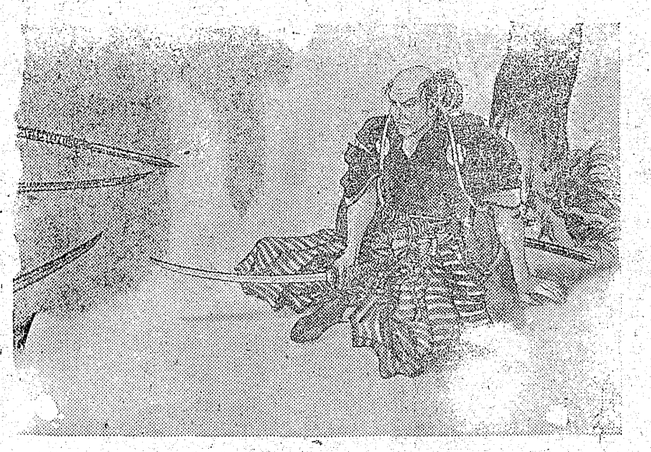
『イヤ、知らん顏して立退いた方がよい』

と云つてゐるのを聞くも認めた安兵衛、

『待て――卑怯者待て、津田新五郎、寺田與之助　應見た寺田與之助、安兵衛とは堀内道場で共に劍術を學んだ間柄だ。

『オ、安兵衛、與之助が相病呼ばり――』

『中山安兵衛武庸、祖父の仇討に參つた。一人――は面倒だ。一同競ひ掛つて來ひ、ジリ――と一進一退し



て、一人を袈裟斬り、一人を腰車に斬つて落したから殘つた柴中傳藏、もうれ迄と思つたか踵を返して逃げやうとするのを、

『卑怯者……』

と、新五郎、一刀の鞘を拂つて正面から來るを必得だりと一足退つて安兵衛、親讓りの伊賀守金道の　刀を中段につけた。エイ、ヤッ、氣合と共に斬りつけた。新五郎はこれを受止めやうとしたが、全然腕が違ふ、而も安兵衛が必死で斬り込む太刀先新五郎の腕では受けきれなかで二言と云はずバターリ。小手が下つて肩口を割られヨロ――する傳藏　津田新五郎　寺田與之助の四人が一度に打つて掛つた、あ得たりと安兵衛右と左に夫れを拂ひつゝ大喝一聲躍りかゝると見わたが、一刀の下に丹羽八藏を斬つて落す。

入れ替つて柴中傳藏が打つて蒐るのを二打ばかり打ち合つたが、エイ、氣合と共に右の小鬢に割りつけるアッと云つて後へ退る。

途端に丹羽五三郎弟の敵と飛ぶ込んで來るのをヒラリ体を開くと横に拂つたのが美事に胴に入つた。これを見た寺田與之助、安兵衛と堀内道場で共に劍術を學んだ間柄だ。

『オ、安兵衛、與之助が相手を致し奥れる』

『悟覺の前だ。サア來い』

ヤッ、エイと双方睨み合ひ、ジリ――と一進一退してゐるが、安兵衛は十六才のとき故郷堀切の土手で父の敵を斬つてゐるし、後諸國を修業して歩いたから人を斬る度胸が出來てゐる。一方與之助は幾ら腕が出來ると云つても人を斬るのは六郎右衛門が初めてだから氣合が違ふ、次第々々に氣合が亂れ、息使ひが荒くなつて來る、その内に一合――かと思ふと、エイ、手打打ち込み、物の美事に與之助を胴切りに打ち放し

『祖父様、御覽下さい、只今此場を去らせず仇討をして御覽に入れまする』

死体を離れて安兵衛が手下の鞘を取て襷をした

『此奴はざまをな、よしその儀ならば六郎右衛門と共に冥土の供をさして奥れる』

おでん　たつた揚　やきとり　一平

平商業組合設立に つき謹告

謹啓　晩秋之砌彌々御清祥奉慶賀候

陳者今般縣當局ノ示ニ依リ平地方全商業者打ツテ一丸トナリ平商業組合ヲ組織シ經濟ノ新体制ヲ確立シ以テ物資ノ配給機構ヲ整備致度十一月十日附ヲ以テ別紙設立發起屆ヲ提出致置候

從來業種別ニ依ル商業組合ヲ結成シ夫々配給業者トシテノ使命ヲ遂行シ來リシモノナルモ配給統制ノ強化ニ伴ヒ種々ナル支障ノ發生ハ必然的ナル現象ナリト思量シ之ガ除去スル目的ヲ以テ企圖セルモノニ有之候

就テハ平商業組合設立認可後ハ各自ノ加入セル組合ハ本組合ニ包含セラレ從テ從來各組合ニ出資セル資金ハ本組合ニ對スル出資ニ依リ一元化サルモノニ有之候間以上ノ事情御了承ノ上御同意相成度願上候

昭和十五年十一月九日

平商業組合設立發起人
總代　山崎與三郎

資格者各位殿

平商業組合設立同意ヲ求ムル書面

今般平商業組合設立發起致候ニ付テハ左記事項承認ノ上御同意相成度此段得貴意候也

昭和十五年十一月九日

平商業組合設立發起人
平市字二町目十八番地
事務所　平市字二町目十八番地
總代　山崎與三郎

平市字宮下町三番地　山崎與三郎
平市字五丁目六番地　諸橋久太郎
平市字四丁目二十六番地　猪狩庄平
平市字一丁目十四番地　菅本庄治
平市字四丁目八番地　鈴木與一
平市字三丁目二十番地　柏原幸次郎
平市字四丁目二十二番地　百澤易與
平市字長橋町二十八番地　關勝茂
平市字中町二十一番地　安藤金次
平市字二町目十三番地　根本善吉

記

一、地區　福島縣平市　石城郡內郷村　好間村　赤井村　上小川組合村　永戸箕輪組合村　三阪澤渡組合村　神谷村　草野村　夏井村　飯野村　高久村　鹿島村及豊間町一圓

二、組合員タル資格　地區內ニ於テ店舗ヲ有シ左記物品ノ小賣商業ヲ營ムモノ

〔食料品部〕
米穀　雜穀　砂糖　小麥粉　和洋酒　清涼飲料
水　醬油　味噌　調味料　果實　蔬菜　海產魚介　塩干魚介　豆腐　壜、罐詰　食肉　乾物　乾麵　和洋茶　乳製品　菓子　飲食業　冷菓　食油　蒟蒻　納豆　麩等食料品雜貨

〔日用品部〕
木炭　石炭　醫藥品　衛生材料　書籍　和洋紙　文房具　學用品　小間物　化粧品　袋物　和傘　金物　自轉車　陶磁器　娯樂器具　花屋　石油　電氣器具　家具　日用雜貨　燃料　玩具　ロープ　石鹼等日用品雜貨

〔衣料裝身具部〕
呉服太物　洋品　履物　洋服　既成洋服　時計　靴　毛糸　裁縫手藝材料　絹糸　ゴム被服　軍手軍足　地下足袋等衣料裝身具雜貨

〔建築材料〕
本材　塗料　畳表　畳糸　莫座　家具　セメント　ニヤ板　硝子器具等建築材料

〔雜ノ部〕
旅館　寫眞師　理髮　湯屋　鞄具　肥料　飼料　麩　農機具　藁　麻竹用工品　古物商品等諸雜貨

三、出資一口ノ金額及其ノ拂込方法　出資一口ノ金額ヲ金五拾圓トス　出資第一回ノ拂込ハ一口ニ付金拾貳圓五拾錢トシ第二回以後ノ拂込ハ配當スベキ剩餘金中ヨリ充當シル外毎年一月末日迄ニ一口ニ付金拾貳圓五拾錢ヲ拂込ムモノトス

豫定出資總口數　六、〇〇〇口

四、經費ノ分賦收入方法　組合員ニ分賦スル經費ハ本年度ニ限リ一名ニ付金壹圓ヲ拂込ト同時ニ徵收ス

五、事業計畫概要

第一期事業
一、組合員ノ爲其ノ配給商品ノ取扱ヲ爲スコト
二、組合員ノ爲其ノ取扱商品ノ仕入ヲ爲スコト
三、組合員ノ爲其ノ取扱商品ノ販賣ヲ爲スコト
四、組合員ノ取扱商品ノ保管ニ別　運搬　包裝及荷造ヲ爲　爲共同設備ヲ設ケ組合員ヲシテ之ヲ利用セシムルコト
五、組合員の營業ニ關スル統制ヲ爲スコト
六、組合員ノ營業ニ關スル指導、研究及調査ヲ爲スコト
七、組合員ニ對シ其ノ營業ニ必要ナル資金ノ貸付、組合員ノ爲ニスル其ノ營業上ノ責務ノ保證又ハ組合員ノ貯金ノ受入ヲ爲スコト
九、以上ニ附隨スル一切ノ事業其ノ他組合ノ目的ヲ達成スルニ必要ナル施設ヲ爲スコト

第二期事業　第一期事業ノ擴充強化

同意申込注意
イ、既設組合員ハ其ノ組合ヲ通シテ申込ミヲナスコト但シ二組合以上ニ加入スルハ禁復セザル樣申込ムコト
ロ、同意書二通、出資引受書一通、業態調査一通提出ヲ要ス
ハ、組合組織ナキ業者ハ單獨加入申込ムコト
ニ、申込締切ハ十二月十五日迄トス
ホ、申込所ハ平市二丁目平商業組合創立事務所宛タルコト
ヘ、同意ニ要スル用紙ハ創立事務所ニ於テ交付ス

内臟外科
泌尿器科
北川外科
醫學士　北川芳夫
平市新川町（電四六四番）

科外生徒募集
一、邦文タイプライター科
時代の尖端を行く昭和婦人の職業
入學　毎月　隨時
卒業期間　四ヶ月（高女卒程度）十ヶ月（中高卒程度）
卒業者の就職紹介　各方面と連絡有り
致旋致します
一、洋裁科
入學　毎月　隨時
卒業期間　本科　一ヶ年　速成科　六ヶ月
文部大臣認可
平陽女學校（平市　電話四四五）

鳩尾を落すと
身體がメキ――丈夫になる
▼實驗上より見たる適應症
胃腸病　胃酸過多症　胃アトニー　胃下垂　胃擴張　ド　痢　便　秘　中風（半身不隨）　血壓亢進　動脈硬化　神經衰弱　不眠症　頭痛　頭重　生殖器障害　鼻病　腦病　胸部疾患　脚氣　精力減退
鳩落加壓器の詳しい説明書や、雨宮博士（文獻は御申込次第無代送呈致します。
日ノ出、キング雜誌上朝日、東日讀賣各新聞紙上に發表しあります
鳩落加壓器（ラヂウム包含）
正價　金拾五圓也　送料（內地三十五錢　海外六十五錢）
製造頒布元　東京　林式健體會本部
特約頒布所　平市古館町一〇（羅社下）
阿康藥局　電話四四番　振替東京三〇〇五番
會協部明發施薦帝國實推

平市南町十四番地（警察署通り角）
（醫診療所　平市六丁目）
木村外科醫院
本村淳　電話三〇九話
外科一般　內臟外科　性病　肛門病科
◎入院應需

お醬油は……ヤマフル
塩屋
味噌醬油　たひら正宗　鰹節　食品料
山崎合名會社
福島縣平市
電話（營業部一〇番　店二七番）
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

新秋の味覺
とんかつ專門の店
奥亞の祭を前にどうぞ一層の御ひいきで御引立をお願ひ致します
▼お届は迅速に御つとめ致します
平市仲田町（電話四六五）
かの家

平看護婦會
附屬に
家政婦會員を募集
致します
電話三〇七番

小名濱商港の修築費通過

二萬町民に凱歌擧る

小名濱町の運命賭けた商港修築費三百萬圓は既報の如く大藏省から前後二回まで内務省へ返却の途暗澹たるものあつたが内務省側不動の方針と縣期成同盟並に地元小名濱町の熱心な運動が奏功し一部削減見たが辛ふじて大藏省の査定を通過し十六年度豫算に頭を出した旨確報あり、小名濱萬町民は凱歌を擧げ詳報を待つてゐるが半額に削減百五十萬圓四ケ年継續事業として通過したものゝ如くである。

海陸の連絡成り 汽船港に輻輳

完成待たるゝ海の玄關

明年度から着工する小名濱商工第二期修築工事は防波堤二百五十間延長、防砂堤百間延長して港口を縮小し、荒波の港内へ入るのを防ぎ一方突堤（阜頭）の西側岩壁を築堤三千トン級の汽船を一隻繫留出來るやうに擴張、從つて港内の浚渫もこれに附隨して居り第二期修築工事が竣成すると初めて汽船が阜頭に横づけられ荷役其の他完全に行なはれ海陸輸送路の連絡成り本縣海の玄關口として商港としての機能を充二分に發揮されるものである、小野町長上京運動中で留守を預る高木助役は語る

二萬町民擧げて吉報を待望してゐるのですが今朝上京中の樋口收入役から「經過良好、今一ふんばり」と電話の情報が入つたばかりで詳報ありません。大藏省通過は眞實でせうか、二期工事成るか否決されるかは町の運命を賭する重大問題ですから通過が事實とすればこの上もない喜びです、小野町長以下町會議員諸氏の不眠不休の運動が報ひられたのでせう

大工組合は去る二日臨時總會を開いて組合解散を議するなど管内のトップを切つて續々新体制に即應して居り土木、建築、左官、瓦職、潜水夫等小名濱町だけでも奉公會へ加盟するもの五百人を超へるものと見られてゐる

酒造業者講習

平税務所では七日午前十時から同署樓上に管内酒造業者を集め縣竹内技師の〃酒の醸造〃に關する講演會を催し終つて十五酒造年度の配給計劃につき夫々協議を遂げた

今年稻作狀況 農試で發表

農事試驗石城分場では今年度の稻作狀況につき七日大雪當日の作況を發表した

早生三種平均反當二石九斗八升六合八勺（玄米）中生三種平均二石九斗七升九合二勺晩成三種平均三石四斗七升四勺總平均三石一斗四升五合五勺平年作に比すれば早生二斗八升七合七勺中生二斗二升二合五勺晩生三斗四升五合平均二斗八升五合二勺の増産である

これを率に換算すれば平年に比較し早生一割一分弱中生八分強、晩生一割一分強、平均九分九厘強の増收を示し一升の重量に於ても共に増加してゐる、附近農家の作況は同試驗場よりは幾分劣るが平年に比し稍良好で先づ豊作と言へる

市民税賦課の市會延期

市民税賦課額決定の平市會は十日招集の豫定であつたが十三日に繰下げとなつた

縣立磐城中・磐女學級増加

「窄き門」緩和さる

縣議の奔走で新學期に實現

縣立磐城中學及磐城高女の入學率は試驗制度改正以來志望者の僅か五十パーセントに止つてゐる爲、父兄間から入學緩和策を叫ばれてゐたが過般の通常縣會に於て郡市出身の縣會議員が八方奔走に努め明年度に於て磐中、磐女兩校共一學級増設案を縣參事會代決に委任するに至つた爲地元側の寄附金が纏り次第縣參事會に附議決定し明春の入學生徒を各五十名宛増募することに成り兒童の窄き門も明春は相當緩和されることになつたくもこれが對策に乘り出し七日校友會長吉田金作、同窓會長清水、磯氏並に同役員、前同窓會長關内正一氏等を招き協議會を開いた結果二萬圓の工費を投じ空家と

櫻丘會の役員招集

緊急對策錄る

磐女側は工費捻出に惱む

磐城高女校でも新學期の學級増加に對處する爲明十日午後一時半から同校會議室に於て緊急櫻丘會評議員會を開き具体案を樹てることに成つたが同校は現在でも教室不足に惱されてゐる程で磐城中學と違ひ四教室を新築の上更に西体操場其の他特別教室の改造等も考慮せねばならず、總工費四萬五千内乃至五萬圓を要するものと見られ工費總出は一苦勞である、右について正木校長は語る

磐中は都合良く古い寄宿舎を利用されるので此較的樂の樣ですが、磐女は四、五萬圓も要るので困りました

入學兒童に福音

「兩校五十名増募」

磐中は二萬圓で寄宿舎改造

現在磐中、磐女の入學停員は各二百五十名と成つて居り一學級増加に依つて一躍定員三百名となり五十名増募される爲、入學兒童にとつて大きい福音を齊らしたもので雛級兒童を持つ父兄も大喜びである磐中側では新學期に備へて早

土木産業奉公會

小名の加盟五百名超過か

平警察署管下を打つて一丸とする平土木建築産業奉公會結成以來各地の土木關係小組合は漸次解消しつゝあるが、小名濱方部は土木請負人太田勝康氏を方部長として加盟した事業主三十二名、との從業員二百十名の多數に上り、全町

『石森山登山』

新田町隣り組（防空第十、十一群）（四）

第五回總會

十一月一日午前十時十分參加人員七十三名日の丸旗當に身も輕く、晴朗な日に惠まれて男女は金山紅葉に滿ちた石森山へ登山、磐城海岸を眼下に見て眺望絶佳、晩秋の氣を滿喫し元氣溌剌として新体制に添ひ体育向上の登山を了し午後三時十五分歸宅致しました、午後六時半岩本氏方に常會開催出席二十九名

一、明治節奉祝賀施

十一月三日午前九時常會員其他一同金地に集合宮城に遥拜致しました、其の節常會班長より趣旨として左記を誓ひました

『謹みて明治節を壽ぎ奉り明治天皇の聖德を仰ぎ鴻業を偲び奉ると共に皇運扶翼の奉公精神を國民各人の行動の基本とし以て臣道の實踐を期す』

一、冠婚葬祭に關する事

第二回常會にて申合せし事なるが區委員に於ても實施する事になり、區内悔金の五十錢、悔返しの全廢は無論花輪供物等も他市町村へも區常會の申合せ通り實行するとの强化を見ました但し必要に應じ常會は適宜供物又は記念品を贈る事になりました

一、七五三祝ひと虚禮廢止

新年、歳暮、中元、節句、出産、婚姻、疾病、年回、新盆軍務服役等は凡て嚴禁、又は質素簡略にする事になりました

一、慰問袋に關する事

各種團体よりの依頼に依る慰問袋は最高價格を三圓五十錢程度とすることになりました、これは常會員の家で十三、四圓の物を入れた爲め起りました事で、會員一般の希望は十三、四圓を一袋とするより約三圓五十錢程度の物を、四ツなり五ツなりにして多くの軍人へ送ることが有意義であるとの事より最高價格を決めた譯です

お願ひ

市内の常會で他に範とすべき申合せや活動狀況等、現に實行しつゝある事柄を詳細御寄稿願ひます、〔となりぐみ係〕

雜貨の闇

二千圓の不當利得

小名濱町字定西居住雜貨卸商長岡義通（四）は今年八月以來東京小石川區傳通院前廣澤商會及び神戸市屋敷町金松商會等からローソク大箱二百十五個、特製輕油三十罐、大豆特製油百五十罐、澱粉飴二百罐を買受けこれを汽車積みのまゝ平市大町塚本商店外平及び石城郡内十數名のものに公定價格を破つて賣却約二千圓の不當利益を得たこと發覺目下平署の取調べをうけてゐる

喜びを語る

平第二校 大谷校長談

新學期に於て磐城高女學級増加の報を平第二小學校へ齎らすと大谷校長は自分のやうに喜んで語る

それは初耳です、ほんとうですか、事實とすれば入學難が相當緩和されることになりますから進學の兒童を持つ父兄は勿論區域内の學校にも大福音です、直接小學校でお手傳することも出來ませんが、市町村側でも希望してゐることであり、工費の寄附金も市町村分擔で何とか纏るのではないでせうか、是が非でも増學級は實現させたいと思ひます

寄附を募集

新學期に間に合ふやう寄附金募集を急ぐことに或つた

寄附を受ける計劃の元に今後の寄附金募集其の他運動方法は吉田、清水兩會長に委任、

促進運動の經過

小名濱商港

必死の努力

報ひる

小名濱商港は昭和六年總工費三百五十余萬圓、六ケ年繼續事業として第一期修築工事に着手したが工事續行中に二百七十六萬圓に削減され、完成年度も三ケ年延長九ケ年の年月を要して昭和十三年五月竣工を見たるも當初の計劃を大削減されてゐる爲、初期の利用價値を擧げ得ず『港あつても船入らず』折角の商港も荒浪の蚕食に任せ放置、昭和十二年以來三回に亘る大風浪に遭つて護岸は次ぎ々々と欠潰大損障を受け港内は波浪の爲砂で埋められるなど港の形骸を止めるの惨狀を呈し『現在の復舊費は五十萬圓を超へるものと見られ、このまゝ放置せんか港内は荒れるに任かせて漁港まで生命を失ふことに成る爲全町民擧げて必死の運動を續けて來たものである

◇

縣當局も商港の將來憂慮すべき事態に驚き前任の君島知事は作年七月『小名濱商港期成同盟會』を結成知事を會長に小松縣會議長以下多數縣議を理事に推し十四年度豫算通過を目指して内務、大藏兩省に猛運動を行つたが遂に全額削除の悲運に遭ひ涙を呑んで今年度に臨んだ、其の後商港の被害は日を追ふて擴大し調査に當つた、内務省當路者も放置することの國家的損害を憂ひて十六年度着工に全力を傾注大藏省に當り辛ふじて豫算通過を見るに至つたものである

◇

一方縣當局地元側の運動は猛烈を極め八日の如きは豫算通過せずんば憤死するの意氣込みで小野町長以下大藏省の廊下に頑張つて夜を徹するなど通過の裏面には涙ぐましい努力が拂はれてゐる

縣學校衛生會議

役員改選

縣學校衛生會議は七日午後二時から平學校醫師を以て成る縣學校衛生總會を七日午後二時から平市公會堂に於て會長上塚學務部長はじめ學校醫其他約百五十名列席の上開かれた。官鎌遙拜默禱の後上塚會長の挨拶同窓會へ圖り「どうしても増學級すること」を第一議として具体策を協議し善處したいと思ふ

會醫會計の報告に次き役員の改選あつて後東京帝國大學名譽教授醫學博士三宅鐵一氏の講演があつて同五時終了した

△總裁橋本知事△會長上塚學務部長△副會長大村教育課長、太田三郎△理事大原八郎、人見友衛、相馬政三星智順、清水慶政、志賀越森田孝純、内田四郎△代議員根本莊次郎（平）島田乗吉（石城）三源三郎（福島）太田一郎（郡山）加藤平次（若松）外各郡一名宛

大漁禍問題解決

網主側三萬圓の缺損

豊聞大數網の鮪腐敗問題は既報の如く問屋、仲買人、網主とリレー式に損害負擔の責任を問ふて接衝を重ねてゐたが、腐敗の原因が水温の高い海中に水漬けしてゐたこと明かであり、官廳の命令に依つて遺棄した事實も認められてゐる爲網主側が讓歩一尾百五十圓の太鮪を五分の一に當る五十圓に値引きして手打と成つた腐敗した鮪は漁獲數一千本の内約三百本で、問屋と仲買人側が一萬五千圓負擔、網主は一本百圓の割合ひで三萬圓儲けを減じ、大漁禍問題も解決を見た

赤井嶽藥師の上棟式擧行

赤井嶽藥師常福寺の本堂上棟式は八日午前十時から縣内の信者、有力者多數參列の上執行された

新体制の歳末年始

小名濱で早くも對處

暮の迫つた小名濱町では歳末年始の贈物廢止の徹底と共に更に一歩進んで〃毎日そば〃にも國策のメスを入れ今度配給になつたウドン七百二十四箱をこの代用に當てることになり商業組合が主となつて各小賣業者と共にそば不足に對應し明朗東亞の正月を迎ることに運動する

小名濱校の査閲

〃優良〃の折紙

小名濱青年學校査閲は既報の如く八日午前八時から高成田中佐に依つて執行されたが戰時下にふさはしい軍事教練だけに町有志の來賓もあつて午後五時縣下にも耀しい『優良』の榮冠を得た、尚今九日は午後一時から日素私立青年學校の査閲を同中佐に依つて日素工場内に開いた

翼賛同志會

井田總務招聘

十四日講演會開く

平市の大政翼賛同志會では八日夜會長大森醫師宅に役員會を開き翼賛會本部常任總務貴族院議員男爵井田磐楠氏を招き十四日午後一時から市公會堂に講演會を開くことに内定井田男爵に交渉することに成つた

尚同會では市内の各業種商人を聘して經濟新体制の座談會を開く計劃も進めてゐる

天氣豫報

今晩　北西の風晴

明日　同

二十八日

満潮　前一、一五　後一、四〇

潮干　後八、四〇　前七、二〇

平市慶弔錄

【出生】平市仲町十八番地笠野和市二女智子さん、平市鍛田町三十二番地佐藤春義二女典子さん

【死亡】平市仲間町四十六番地山崎八百治孫紀男（當才）平市久保町四十一番地大竹國之助（八四）

▲一日　何れに向くも愛より先なるはなし怒は禁物▲二黑　意に滿たざる業も時日を經れば趣味を生ず▲三碧　勇め天第にて目上の引立てに恵ふべき吉日▲四綠　盛運の日なれど心を逸せず細事に注意せよ▲五黄　愛き目を見ぬるとも夫にたゆまず辛抱すべし▲六白　一時の悲あいは後日の歡喜となる氣を締めよ▲七赤　次から次と幸運に恵る▲八白　自重して守るを專一とし新事を企べからず▲九紫　亦和にくらむときばつまづき　後指　指さるべし

肉の御用命は
三三屋
牛も豚も優良品の自慢

大小の御宴會に　ホール
御家族の御同伴に御座敷
いつも材料を吟味して居ります
平市興亨目
マルトヨ食堂

防空暗幕
天幕・シート製　防水マント作　カーテン・敷物・防水加工販賣
設計と施工
敷島屋商店　平市六丁目六　電呼四八三番

◇土地分譲
◎玉川村大原地内一、田畑、三十筆（湯本街道側交通便）
◎玉川村島地内一、田、七筆（耕整地肥沃ニシテ反當リ七俵收穫）
◎小名濱町辨別、吹松、堤の北地内一、山林田畑、十三筆
●乞大至急御申込　契約金三割申受ケ登記ト同時ニ殘金申受ク
平市田町三番地（平驛前）
合資會社　東北商行（電話六四八番）

平商業組合
同意締切公告
今般設立準備中ノ平商業組合同意手續ハ十二月十九日ヲ以テ締切致度候ニ付地區内資格者各位ニハ至急御申込相成度候
（詳細ハ二面廣告御參照ヲ乞フ）
平商業組合設立發起人
總代　山崎與三郎
資格者各位殿

「貯蓄は無盡で」
三行園
一歩ずつ堅の山
社交が広くなるほど
兵隊がましょう今のうち
磐城無盡